



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2019年5・6月
第328号

病院だより第328号 (2019年5・6月号)

発行者 昭和大学藤が丘病院
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
編集責任者 広報委員長 今井 敦
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
Tel 045-971-1151

看護部長就任のご挨拶

藤が丘病院・リハビリテーション病院 看護部
看護部長 城所 扶美子

4月1日より、伊部富士子看護部長の後任として、藤が丘病院および藤が丘リハビリテーション病院の看護部長に就任いたしました。私は、入職から大学病院に勤務し、2013年3月より昭和大学江東豊洲病院の開院準備と、開院後の運営に携わってまいりました。2015年に大学病院の看護部長を拝命し、この度藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院に異動となりました。もとより微力ではございますが、皆様のお力添えを頂き、職務に精励する所存です。



昭和大学は医系総合大学として、社会に貢献できる医療人の育成を使命としています。看護部においても、「藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院看護部は、患者・家族に、より質の高い看護を提供します」を看護部理念とし、この理念を目指し、人材育成と人材の有効活用に取り組んでいます。看護ケアは看護職員によって提供されます。看護ケアの質を高めるため提供する看護職員の育成は重要になります。人材育成では、附属病院共通プログラムである新人教育や、クリニカルラダーを活用したジェネラリストの育成に力を注いでいます。特に、新人看護職員研修は専門職として、実践の基礎を形成する上で非常に重要です。平成22年の法律改正により、新人看護職員研修が努力義務となり、「新人看護職員研修ガイドライン」が厚生労働省によって作成されました。このガイドラインを基に、昭和大学附属6病院共通の「新人教育プログラム」が整備され、今年度も藤が丘病院76名、リハビリテーション病院6名の新人看護師・助産師を迎え、現在プログラムが進行中です。人材活用では認定看護師や臨床教員など専門性の高い看護師・助産師が各現場で活躍しています。認定看護師は、地域連携強化として様々な施設からの研修依頼や相談に対応しています。患者さんや面会の方、地域住民の皆様向けには「知って得する予防セミナー」を定期的で開催し活躍の場を広げております。

社会では働き方改革が進められ、これから生産人口が減少する中で、限られた時間と人員において、どのように働くかは重要な課題であると考えます。

質の高い看護を提供するために、人材育成と人材の有効活用への取り組みをさらに強化しつつ、医療チームの一員として看護部組織が病院運営と地域医療に貢献できるよう努力したいと考えます。

これからも、皆様からのご指導、ご鞭撻の程よろしくご願ひ申し上げます。

就任挨拶

リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
技師長 赤荻 賢司

2019年4月1日より、藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター技師長に就任いたしました理学療法士の赤荻賢司(あかおぎけんじ)と申します。就任にあたりご挨拶申し上げます。



私は、1990年4月に大学病院に入職し約25年間在籍し、その後江東豊洲病院に約4年間勤務し、平成の時代を急性期リハビリテーションに携わってきました。今回、新元号の令和の時代に藤が丘リハビリテーション病院に勤務することとなりました。

入職当時は、リハビリ部門は大学病院と藤が丘病院の2施設で、職員数も数十人でした。30年余り経過した現在、当院に加え東病院・横浜市北部病院・江東豊洲病院・烏山病院・歯科病院の8施設となり、職員数は学生教育や回復期病棟の充実化の方針の下、平成25年度より倍増しました。更に平成28年度から臨床教員も配置され、総数約170人の大きな組織となりました。部門としては、平成29年度から統括リハビリテーション技術部となり、統括部門の一員として独立した活動も始まりました。

藤が丘リハビリテーション病院は開院して30年目となり、私と共に歴史を刻んできた病院であることを再認識しました。

今後、昭和大学創立100周年に向け、日本有数のリハビリテーション病院となるよう、当該統括部門の理念である「真心と情熱をもって対象者に接し、治療、訓練、指導、援助といったリハビリテーションを安心して提供できる人材であること。部門管理や教育指導、研究においても専門的能力を発揮できる人材であること」を意識し、取り組みたいと考えております。また、統括リハビリテーション室の職員が、より働きやすい環境となるよう、「ライフワークバランス」や「チーム医療」を推進していきたいと考えております。

最後に私事ですが、外見上分かり難いですが、視覚に障害があり細かい文字や遠くのものが見にくい状況です。皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



横浜北西部医療圏の砦を目指して

藤が丘病院消化器・一般外科
診療科長 田中 邦哉

消化器・一般外科は、藤が丘病院開設当初より大外科としてその歴史が始まり、以降、脳神経外科、胸部心臓血管外科、小児外科、乳腺外科などの独立あるいは統廃合を経て、現在の消化器・一般外科の診療形態となっています。

診療領域

昨年7月より診療体制が刷新され、従来の上部・下部消化管手術およびヘルニアなどの一般外科手術、腹部救急疾患手術に加えて、肝胆膵疾患に対する高難度手術にも対応できる体制となりました。上部・下部消化管およびヘルニア手術では、腹腔鏡下手術に積極的に取り組んでおり、

近々導入されるダビンチ手術にも対応できるように準備を進めています。肝胆膵疾患に対する手術では、下大



静脈や門脈などの主要血管を合併切除し再建するような高難度肝胆膵手術に取り組んでおり、さらに、従来切除適応とならなかったような進行癌に切除適応を拡大する

よう取り組んでいます。たとえば、従来は過大肝切除が必要で、術後の残存肝の不足から肝不全発症リスクが高いため切除適応とならなかった多発肝腫瘍に対して、肝切除をトリガーとした生体の肝再生能力を利用し、肝切除を計画的に2回に分割し、初回肝切除のトリガーで残存予定肝の容量が増大するのを待って2回目切除を行なうといった手術を取り入れています。また一方で、低侵襲手術としての腹腔鏡下肝手術にも積極的に取り組んでいます。

診療体制

現在の診療体制は診療科長以下、上部消化管の担当医が2名、下部消化管担当医が4名、肝胆膵疾患担当医が3名、一般外科担当医が2名といったスタッフ構成となっており、これに後期・初期臨床研修医が加わって診療を行っています。

前述のような高難度疾患への切除適応拡大あるいは手術の安全な遂行のためには、腫瘍内科と連携した周術期化学療法の実用や、消化器内科や放射線科による的確な術前診断、術後合併症発症時のインターベンションあるいは

内視鏡アプローチによる非外科的・非侵襲的なりカバリー処置が必須であり、藤が丘病院ではこのような診療各科での連携体制が十分確立しており適切に機能しています。これらの消化器内科、放射線科、腫瘍内科に病理診断科も加えて、週1回カンサーボードを開催しており毎回白熱した議論が行われ互いに切磋琢磨しています。

以上のように横浜北西部医療圏の砦となれるよう日々の診療に取り組んでいますが、現在の当教室の大きな悩みは手術症例数と比較した際の絶対的なマンパワーの不足です。新しい元号となり、若い先生方に喜んで入局して頂ける教室となれるよう努力している今日この頃です。



臨床研修薬剤師として

藤が丘病院 薬剤部
臨床研修薬剤師 大日方 瞳

この春より臨床研修薬剤師として昭和大学藤が丘病院に入職いたしました。

今年度から薬剤師レジデント改め臨床研修薬剤師となり、研修期間も1年から2年となりました。初めの3ヶ月は調剤業務を中心としたセンター業務を主に学び、その後病棟での研修が始まります。

現在入職して2ヶ月が経ちましたが、調剤や疑義照会を通し学びの多い日々を過ごしています。知識や理解の至らない点を指導してくださる先生方、ともに知識を深め合える同期と恵まれた環境で研修できることをとても嬉しく思います。

多彩な診療科を持つ大学病院での研修を通して、薬の使い方や生じてくる問題について多角的に学び、適切な薬物療法に貢献できる薬剤師になりたいと思います。また、高齢化に伴うポリファーマシーの解消など、退院後の暮らしにも目を向け地域医療にも貢献できるようになりたいと思います。

知識も経験もまだまだ未熟ですが、1日でも早く患者さんに貢献できるよう努めてまいりますのでご指導よろしくお願いたします。



昭和大学藤が丘病院に入職して

藤が丘病院 集中治療センター
看護師 西野 高悠

至誠一貫。私がこの理念を知ったのは、大学3年の春でした。

鹿児島で行われた病院説明会に参加した際、昭和大学のブースを訪れ昭和大学の理念と、昭和大学宣言が印象に残り、昭和大学の看護職として社会貢献できる人材になりたいと強く感じました。

私は、祖父が脳血管疾患を患い長期療養生活の中、患者や家族にまごころを尽くして接してくれる看護師に憧れ、この職業を目指すようになりました。

大学卒業まで鹿児島で過ごしていたため、見知らぬ土地での生活に不安を感じていましたが、部署の先輩方に温かく迎えられ、充実した生活を送っています。

私の配属部署であるICUでは、主に手術後の治療管理を必要とする患者さんが入院しており、状態変化もやすく緊張の場面も多い部署です。安全な看護が提供できるよう、先輩方からご支援いただき看護職として社会に貢献できるよう、日々努力していきたいです。



検査技師として今後の抱負

藤が丘病院 臨床病理検査室
臨床病理検査技師 門脇 幸子

4月から昭和大学藤が丘病院生理検査室に配属となりました、新渡戸文化短期大学出身の門脇幸子です。私は今後の抱負を三つ掲げています。

一つ目は、基本的な仕事をしっかりと覚えることです。なぜなら、今後の自身の検査技師としての基盤にも繋がると思うため、丁寧かつ正確に仕事を覚えていきたいと思っています。

二つ目は、何事も前向きに取り組むことです。私は自身のスキルアップのため、資格や検定の取得を考えています。そのため、学ぶことを怠らず自己研鑽に努めたいと思います。

三つ目は、患者さんに対して思いやりの心を持って接することです。病院には様々な身体的、精神的事情を持つ患者さんが多くいらっしゃいます。その方々にも安心して検査を受けていただくため、惻隱之心を忘れずに患者さんに寄り添いたいと思います。

新社会人、医療人として至らない点があると思いますが、何事も全力で取り組みますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



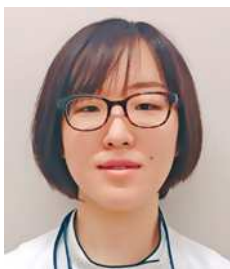
まごころと責任感ある作業療法士になるために

リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
作業療法士 長沼 沙央理

今年度より昭和大学に入職しました作業療法士の長沼沙央理と申します。まだ慣れない環境で、緊張しておりますが、先輩方に優しく厳しく丁寧に指導をいただきながら、日々の業務に励んでおります。

私の抱負は、回復期スタッフとしてリハビリテーションの質を向上しつつ、患者さんの人となりを尊重し、その人にとって価値のある生活を考慮できる作業療法士になることです。そのために、まずは患者さんに誠意ある態度で接し、医療を提供する者として患者さんのお役に立てるように責務を果たしたいと考えております。そのうえで、患者さんやご家族の今後の人生をより豊かにできるように知識や技術を意欲的に獲得し、自己研鑽に努めてゆく所存です。

これからリハビリテーションセンターのスタッフの一員として貢献できるよう日々精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



自己紹介&配属されて一か月たってみて

藤が丘病院 管理課
永井 彰

この度、昭和大学藤が丘病院管理課管理係に配属された永井彰です。学生時代にはスポーツに熱中し、その中でも特にスノーボードに明け暮れていました。今年も時間を見つけて、怪我をしないよう雪山に行きたいと思っています。

配属されて約一か月たち、まだまだ仕事内容も分からない事だらけですが、諸先輩方に優しく丁寧に教えて頂けることや、明るい雰囲気の中で日々業務できることに感謝しています。配属当初は、初めての実務と今まで耳にしたことの無い用語が飛び交い、とても混乱しました。また、電話応対では用件に対する部署や担当者がわからない事や、相手の用件を聞き取れないなど、うまく受け答えすることができませんでした。現在は、環境にも少しずつ慣れ、電話応対も以前よりはできるようになった気がします。

まだまだ未熟ですが、藤が丘病院に貢献できるように経験を重ね、「チーム医療」の一員として、「事務職員」として精一杯努めていきますのでご指導のほどよろしくお願い致します。



看護の日イベント

21世紀の超高齢社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を、広く国民が分かち合うことが必要です。このことを、老若男女を問わず誰でも認識するきっかけになるようにと、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は「看護の日」と制定され、毎年5月12日を含む日曜日から土曜日までの一週間を「看護週間」としています。

藤が丘病院・リハビリテーション病院では毎年「看護フェスティバル」と称してイベントを開催しています。今年は、5月10日(金曜日)に開催しました。当日は快晴の天気にも恵まれ、病院正面玄関前で記念品を配り、皆様から心温かいお言葉を掛けて頂きました。また、がん性疼痛認定看護師による看護相談(がん相談)も同時に開催し、多くの方に看護活動の一環を見て頂きました。



(藤が丘病院 看護部 小池 あつ子)

世界トライアスロンシリーズ横浜大会にメディカルスタッフとして参加

5月18日(土)、19日(日)にITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会が、山下公園周辺特設会場で開催されました。このシリーズは毎年横浜で開催され、藤が丘病院と横浜市北部病院の医療スタッフが派遣されています。両日とも天気に恵まれ、参加選手はみないきいきと競技していました。

5月19日には当院から医師3名、看護師5名がメディカルスタッフとして参加し、救護所でメディカルチェック、怪我の応急処置や救急搬送などを行いました。参加選手のみならず、スタッフや観戦者にも医療対応を行いました。

メディカルスタッフ一丸となり、大きな怪我や事故なく無事に大会を終えることができました。

ラグビーワールドカップや東京オリンピックも近づいており、横浜にも世界各国から選手や観光客が訪れることが予想されます。今後も地域の住民の方々や横浜を訪れる人々の力になれるように、医師・看護師・コメディカルで連携しながら積極的に地域に寄り添う診療を行っていかうと思います。



(藤が丘病院 救命救急科 柿 佑樹)

診療統計 2019年4月・5月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2019年4月	2019年5月	2019年4月	2019年5月
外来患者数	28,801人 (1,200.0人)	27,582人 (1253.7人)	4,402人 (183.4人)	4,422人 (20.0人)
入院患者数	16,406人 (546.9人)	16,024人 (534.1人)	5,518人 (183.9人)	5,698人 (183.8人)
紹介率	84.0%	83.1%	64.8%	70.5%
逆紹介率	62.6%	67.2%	98.8%	86.6%

《広報委員会委員》

今井 敦	原田 浩史	佐々木 春明	市川 度	小岩 文彦	川手 信行
泉 紀子	角田 博子	高木 睦子	鈴木 美穂	藤宮 龍祥	東 哲士人
岡部 圭吾	斉藤 あずさ	和田 洋一	(順不同)		